賦古今国名世吉連歌

発句	白山に雪積もるらし今朝の声	泉	冬	山・降・時朝	（美吉野の…白雪積もるらし）325
脇	いよよ高くも鳴く寒烏	春美	冬	動鳥	（伊予）
三	わが屋戸の庭に童ら集ひきて	千恵	雑	人・居	（わが屋戸の池の藤波）135
四	若さあふれてまりを転がす	恵美	雑		（若狭）
五	もみぢせば韓紅に染むるらん	美智子	秋	植木	（千早振る…韓紅に）294
六	夜長とともに村の静まり	裕雄	秋	時夜	（長門）
七	うたた寝をさめて清けし望の月	春美	秋	時夜・光	（うたた寝に恋しき人を）553
八	秋いづくより風の吹きくる	美智子	秋		（伊豆）
ウ一	島隠れ舟影いくつ残しつつ	恵美	雑	水・山	（ほのぼのと…島隠れゆく）409
二	ふりむけばなほ沖の白波	泉	雑	水	（隠岐）
三	色見えで夕闇の中移ろひて	裕雄	雑	時夕	（色見えで移ろふものは）797
四	逢はでゆかまし外つ国までも	春美	雑		（阿波）
五	君ならで誰にか見せむ胸のうち	千恵	雑	人・恋	（君ならで誰にか見せむ）38
六	恋の移りをいつ見るまでも	泉	雑	恋	（和泉）
七	橘の香の残りたる薄衣	美智子	夏	植木・衣	（五月まつ花橘の香をかけば）139
八	終りなき世を蛍のとぶ	春美	夏	述・動虫	（尾張）
九	宇治山にわが庵近く月涼し	裕雄	夏	名山・人・居・時夜・光	（わが庵は…うぢ山と）983
十	御法の声をありがたく聞く	春美	夏	釈	（美濃）
十一	見渡せば天津羽衣雲のゆく	千恵	雑	聳	（見渡せば柳桜を）56
十二	村のをちこち春の訪れ	泉	春		（佐渡）
十三	こもり沼の水の底まで花のかげ	春美	春	水・植木	（今日のみと…花のかげかは）134
十四	みかはす背に柳の芽ぶき	千恵	春	植木	（三河）
ナ一	大き国旅こそ神のまにまにて	裕雄	雑	旅・神	（このたびは…神のまにまに）420
二	威勢の良きもたちまち沈む	春美	雑		（伊勢）
三	なぐり合ひ別れぬるかな兄弟	裕雄	雑	人	（結ぶ手の…別れぬるかな）404
四	睦みし日々を思へばかなし	春美	雑	述	（陸奥）
五	冬ざれも高砂の松変はりなく	恵美	冬	名・植木	（誰をかも…高砂の松）909
六	こたつの恋はするがままなる	裕雄	冬	居・恋	（駿河）
七	思ひつつ寝ればや髪の乱れぬて	春美	雑	恋・時夜	（思ひつつ寝ればや人の）552
八	あはあはと衣ずれの音	千恵	雑	衣	（安房）
九	今日は淵昨日は瀬なると歌に詠む	裕雄	雑	水	（世の中は…昨日の淵ぞ今日は瀬）933
十	鹿の遊べる秋の広前	春美	秋	動獣・神	（安芸）
十一	心あてに折りて贈らむ菊の花	恵美	秋	植草	（心あてに折らばや折らむ）277
十二	にぎはひたのし露の朝市	泉	秋	降・時朝	（飛騨）
十三	有明の月の有処を探したり	千恵	秋	時朝・光	（有明のつれなく見えし）625
十四	いつもの道を語り合ふ友	裕雄	雑	人	（出雲）
ナウ一	袖ひぢて結びし水を懐かしみ	春美	雑	衣・水	（袖ひじてむすびし水の）2
二	みやげに求む品のかずかず	千恵	雑	旅	（信濃）
三	かりの宿いまだ旅なり我もまた	恵美	夏	居・旅・人	（けさ来鳴きいまだ旅なる）141
四	山遠くより吹くは涼風	泉	夏	山	（大和）
五	かぎりなき雲井のよそに心おく	恵美	雑	聳	（かぎりなき雲井のよそに）367
六	蝶いくつ見えのどかなりたる	泉	春	動虫	（能登）
七	久方の光のかよふ花の門	春美	春	光・植木	（久方の光のどけき）84
八	神帰る杉いはふ永き日	裕雄	春	神・植木	（紀伊）

泉	十二	七
春美	七	
千恵		
恵美	六	
美智子	三	
裕雄	九	